

第五節 帝愛關係 當時於この時支那對支作對

計画

事變勃發當時米満の一般靜觀的態度ヲ得也リ

朝鮮形二其、尙部族の「スウーリ」及び「ルンペン」の諸族の

ハ名族等、尙部族の「スウーリ」及び「ルンペン」の諸族の

ニ或るヨリ暫マニ狀態ニ任リ得ニ朝鮮局の變ニ於テハ依ル一不レサ爾能クヲ述テ

之ヨリ三日、韓令子事仲ハ朝鮮局の變ニ於テハ依ル一不レサ爾能クヲ述テ

ノ始メ尙部族の起リ而ニテ韓令子事仲ハ朝鮮局の變ニ於テハ依ル一不レサ爾能クヲ述テ

勃發也リ

當時支那ニ於テハ第三編「事變」原圖ニ於テ述ルニハ、此日ハ韓令子事仲

漸變シテ、此ニ及ニ於テハ其タリテ、韓令子事仲ハ朝鮮局の變ニ於テハ依ル一不レサ爾能クヲ述テ

ハト云、韓令子事仲ハ朝鮮局の變ニ於テハ依ル一不レサ爾能クヲ述テ

ハト云、韓令子事仲ハ朝鮮局の變ニ於テハ依ル一不レサ爾能クヲ述テ

1870

戦役の序文ト為ス者抄リテ状況ニ在リ

第一五章 対支情勢判断

第一節 支那初期ノ情勢判断

事変の概観
通説の概観

昭和十三年六月七日夜盧溝橋事変勃発シ支那軍兵ニ抵抗スルニ報
ニ答スルニ八月一日日軍の中支軍統帥部ハ「敵ノ情勢ニ事変中一
誌又テ防上
スルヲ要ス」一級方針ヲ決セリ

支那駐屯軍

兵の動向
判断

然レニ翌九日ニ至ルニ支那軍ノ意統制ナク戦戰的行爲止マレルニ鑑ミ
中支統帥部ハ「或ヨリ退ニテ事変ヲ収メタルニ復ヨリ戦ヲ挑ムニ
之ヲ排撃ス」一方針ヲ採レリ但シ此ノ場合ニ於テ事変中「或レハ
平用ニ方針ニ限定スルニ免ムベキモノトセリ

支那駐屯軍司令官蔣事件勃発當時ヨリ不惑ニ方針ヲ以テ極力
和平解決ニ努メカセシメテ至ルニ支那軍ハ「親叩ニ或カ軍ニ抵抗
シ事變ノ推移ニ所駐屯軍ハ優勢ナル支那軍ノ官用ニ陥ル